

サイの御教え 一九六五年グループルニマーにおける御講話（上）

歓喜の泉

Gokouwa1.jpg

今日は神聖な祝日です。今日は、私たちが、サグナ
礼拝（有形の神を礼拝すること）という宝石と、マー
ナヴァ（人）はマーダヴァ（神）になることができる、ナ
ラ（人）はナーラーヤナ（神）になることができる、
ジーヴァ（個々の魂）はブラフマン（普遍なる魂）にな
ることができる、あるいはむしろ、ジーヴァはブラフマ
ンであるという、希望と確信を人類に与えてくれた
聖仙ヴィヤーサを敬う日です。『バガヴァッド ギー
ター』と『ブラフマ スートラ』は、これらの価値のある
教えを提供している偉大な聖典です。

人は、マーヤー（神聖な幻）とマーダヴァ（神）、
モーハ（迷妄）とラーマ（神）、デーハ（体）とデーヒ
（魂）、シャダ（不活性な物質）とチット（意識）、シャ
リーラ（体）とシャリーリ（体をまとう者）、ジーヴァ
（個々の魂）とブラフマン（至高の魂）といった、同じ実

質の二つ要素が混ざった存在です。石臼の上下の石のように、ブラフマンであるほうはどつしりと安定しており、ジーヴァであるほうは回転します。安定しているものは基盤であり、回転するものは「それに依存するもの」です。グルは、真理の知識を人々から覆い隠している根本的な無知を取り除く教師です。このプールニマー、すなわち満月の日は、グルを敬うために定められました。なぜなら、知識の力は、灼熱しゃくねつの苦しみを終わらせて、人の心に涼しい心地よさを与えてくれるからです。ヴィヤーサ仙はナーラーヤナ神そのものであるとして敬われています。神以外の誰が光を与えることができるでしょう？

もしあなたが家族に忠誠を傾けているなら、あなたは家族の召し使いです。神に忠誠を傾けているなら、あなたは神の召し使いです。しかし、神の与える賃金を気にしてはなりません。賃金や報酬の額を主張して、神に交渉してはなりません。賃金を要求して騒ぎ立て、自分は貧しいと声高に言うのは、雇われた労働者のみです。神の親族、神の家族、神の子でありなさい。そのとき、神は当然のこととして、あなたの快適

さを保持します。神の近くにいるよう努めなさい。神の親族と同じくらい近くにいなさい。自分は神に何時間奉仕したかを計算し、神は報酬を与えてくれないと嘆いてはなりません。常に神に奉仕していなさい。言い換えるなら、善いことをし、善くありなさい。

スマラナという電線で自分と神をつなぎなさい

カルナは死が常に身近にあることを知っていました。それゆえ、カルナは誰であれ自分に頼みに来る者があれば、それがどれほど大変なことであっても、すぐにその場でそれをかなえてやり、先延ばしにすることはありませんでした。というのも、カルナは「私の心は変わるかもしれない。私の命は終わるかもしれない」と言っていたからです。人々は、出会う人に「クシェーママ？（万事良好ですか？）」と挨拶し、相手も反射的に「良好です、ありがとうございます」と答え、自分の寿命が日ごとに一日ずつ短くなっていることを自覚していません。人にクシェーマ（安定して良好であること）はありません。人はクシェーマ（衰退）のみを経験

しています。ですから、起き上がって、あなたに残された日々を精一杯生きる決意をなささい。

グルは、ますます深い暗黒へと人を連れていく悪の道にあなたが入ったことを見つける人です。なぜなら、グルは、正しい道を知っており、道を照らす灯りを持たずに夜の苦悩から逃げ出す努力をしているすべての

人への愛に満ちているからです。今日はグルの中でも

一番のグルが感謝をもって憶念される日です。そのグ

ルはナーラーヤナと呼ばれます。なぜなら、ナーラー

ヤナは実在であり、もしあなたが周囲にグルを見つけ

られず、グルを求めて祈るなら、あなたの内にいる

ナーラーヤナ自身があなたに道を示し、あなたを導

いてくれるからです。内なるグルに導かれるほうが

ずっと望ましいのです。なぜならば、自分はグルであ

ると主張する人々の多くは、自分自身が物質的な快

楽にふけていたり、貪欲や羨望や悪意でがんにがら

めになっていたりしているからです。「グル」には「重

い」という意味もあります。多くのグルは、体重が重

いということだけは当てはまりますが、霊性の高さ

いうことにおいては当てはまりません！

家に灯りを灯すために発電所から電気を引くには、一定の間隔で電柱を立てて、家と発電所とを電線をつながなければなりません。それと同様に、神の恩寵を得るためには、規則正しく霊性修行をし、スマラナ（神の御名の念唱）によってあなたを神とつなげなければなりません。

内なる歓喜の泉を見つけなさい

実利主義者（チャラヴァカ）たちは、自分の手の中

にいる一羽の鳥は藪やぶの中なかにいる二羽の鳥よりも価値

があると主張しました。彼らは、後で与えられるとい

う約束を希望にして、現在の楽しみを捨てるべきでは

ないと言いました。しかし、捨離むさぼの幸福は、今、ここで

味わうことができるとあり、貪りむさぼと執着から得

る幸福よりも、はるかに長続きし、意気を揚げてく

れます。加えて、五感の支配者でいることは、五感の

奴隷でいることよりも、はるかに確かな喜びです。今、

あなた方はコーヒーを飲む習慣の奴隷です。コーヒー

への執着を捨てる決心をして、三日続けてその決意を貫きなさい。そうすれば、あなたは舌の主人となり、舌はあなたの奴隷となります。コーヒーは、もはや、あなたを支配することはできません。コーヒーが喜びを与えられるものであるなら、すべての人は皆、等しくコーヒーという飲み物から喜びを得るはずで。しかし、紅茶を好む人もいれば、コーヒーは美味しくないと感じる人も大勢います。砂糖なしのコーヒーを好む人もいれば、ミルクなしのコーヒーを好む人もいます。このように、喜びを与えるのは心であって、コーヒーではありません。五感に喜びを与えているのは物質ではありません。

秘訣は、内なる歓喜の泉を見つけることです。それは、決して涸れることがなく、常にいっぱいになり満ちており、常に清涼な泉です。なぜなら、それは神から湧き出ているからです。体とは何ですか？ 体はアトマを包んでいる五つの鞘さやにはかなりません。その鞘とは、アンナマヤ鞘コシヤ（食物でできている食物鞘）、プラナーマヤ鞘コシヤ（生気キでできている生気鞘）、マノーマヤ鞘コシヤ

（思考でできている心理鞘）、ヴィグニヤーナマヤ鞘コシヤ（知性でできている理智鞘）、アーナンダマヤ鞘コシヤ（至福でできている歓喜鞘）です。これらの鞘をいつも黙想コシヤしていることで、サーダカ（靈性修行者）は、外側から退いて、内側にあるもつと実在的なものの中へと入っていく識別を得ることができます。このようにして、自分とブラフマンが一つであるという知識に達するために、サーダカは、徐々に、一つずつ鞘を捨てていき、最終的にすべての鞘を消滅させることができます。

真理と愛をあなたの導き手としなさい

私がこうしたことを、何度も何度も、毎年毎年繰り返して話すのを、たいいていの人聞いています。けれども、ほとんどの人は靈性修行の第一歩さえ踏み出していません。あなた方は私が講話を続けることを望み、私の話したことをあとで読み返すためにノートに書き留めます。しかし、私の言ったことを実践しないなら、その一切はまったくの無駄です。あなたは朗々と語るかもしれませんが、人は口によって判断される

のではなく、行ないと態度によって判断されるので
す。

『バーガヴァタム』の一連の講話にすべて出席し、二、
三の決まり文句を覚えた女性がいました。その女性
は、怠け心が身に付いて、水も汲くまずに遅くまで寝て
いるようになりました。夫が小言を言うのと、その女性
は一つの詩節を引用しました。それは、人は自らの内
に、イダー、ピンガラー、スシムナーというナーディ
(脊柱せきちゆうの左右中央を走っていると考えられている氣
道)として、ガンジス河、ヤムナー河、サラスワティー
河すべてを有しているというものでした！ 夫は、妻の
厚かましさと、靈的なものに見せかけたインチキに、
たいそう驚きました。そこで、夫は一計を案じ、水の
入った壺や水差しをすべて家の外に出し、とても塩辛
いものを妻に食べさせました。妻が激しい喉の渇きに
ヒーヒー言つて、水を持ってきて欲しいと必死になつて
叫ぶと、夫は妻が引用したのと同じ詩節を述べてから、
「おまえの内にあるガンジス河とヤムナー河とサラス
ワティー河から水を汲くんできなさい！」と言いまし
た！ 靈的な事柄に関して、偽善や裏表のある言行

は通用しません。ですから、真理と愛をあなたの導き
手と同伴者にして、細くてまっすぐな道を歩いてい
なければいけません。

青年が海外の国に行くと、年老いた両親は、我が
子は異国の文化の誘惑にどう対処するだろうかと心
配します。ある父親は、息子に手紙を書き、食べ物と
飲み物、神への礼拝と祈りに関する家の習慣を守る
よう懇願しました。息子はその手紙を読むと、目に
涙を浮かべて手紙を胸に押し当てました。けれども、
それで終わりでした。息子は誘惑に負けて、徐々に態
度が変わっていきました。手紙が書かれた紙は敬われ
ましたが、手紙の内容は敬われなかったのです。神聖
な書物もこれと同様に扱われています。人々は、聖
典の上に花を供え、さらには、食べ物を神聖なもの
しようとして、聖典にお供えさえしています。太鼓叩たた
きや笛吹きが先頭になつて聖典の神輿みこしを担いで通り
を練り歩いています。けれども、聖典を読むこと、そ
の内容を理解するよう努めること、書いてあることを
わずかでも実行することは、人にとってほとんど不可

能な課題となっています！

他人の欠点を探すなかれ

そうした書物が説いていることを一つだけ話しましょう。今日のグル プールニマーの日（神聖な導師に捧げる満月の日）から、私が皆さんにそれを守る決心をしてほしいことがあります。それは、人の欠点を探さないこと、人に暴言を吐くこと（パラドゥーシャナ）と人を傷つけること（パラヒムサー）をやめること、人の悪口を言わないこと、妬みや恨みを持たないこと、気持ちの上でも、話をするときにも、いつも穏やかであること、人との会話を信愛と謙虚な気持ちで満たすことです。

愛をもって生活し、愛の中で生活し、愛のために生活しなさい。そのとき、愛の権化である至高の神は、あなたが何も頼まなくとも、あなたに必要なものをすべて与えます。至高の神は知っています。至高の神は、食べ物を欲しがると子供の嘆きが聞こえるのを待つ

ことなく食事を与える聖母です。至高の神の愛は、非常に深く広大です。至高の神は、あなたのあらゆる必要を予期して、あなたが得なければならぬ助けを手に駆けつけます。あなた方は皆、自分の願い（クローリカ）を書いた長いリストを持ってきて、それを私の目の前に置くことができるよう、いつ私にインタビューを与えられるかを知るところを切に望んで待っています。あなたの願いは増えるばかりで、きりがありません。一つの願いがかなうと、それは新たな一連の願いへとつながります。神の意志のみを重視し、自分分は神の手の中にある道具である、という段階に達するよう努力しなさい。

「聞くこと」には三種類ある

耳は、悪いことを聞くことを好み、善いことを歓迎しません。耳は、あまりにも歪められ、墮落させられています。「聞くこと」にはさまざまタイプがあります。

その一つは「粘土」のタイプです。粘土は水を加え

ると柔らかくなりますが、水気がなくなると前のよ
うに硬くなります。心(マインド)は宗教的な講話を
聞くと柔らかくなりますが、あなたがその場から離
れると、その効力は失われます。

それから、「カラス」のタイプです。いくらカラスに
声を良くして歌うようにと教えても、カラスはそれを
聞く前と同じく「カー、カー」と騒々しく鳴きます。

そして、「蚊」のタイプです。あなたが一時間静か
に座つていようとするときに限って、蚊はあなたを邪
魔し続けます。いくら「シツ、シツ」と言っても蚊はそ
れを聞きません。蚊は何度も何度も攻撃してきて、
あなたに害を与えて喜びます。このような低級な欲
望を満足させてはいけません。聞くことを抑制しな
さい。ゴープー「牧女」たちは、クリシュナの栄光、ク
リシュナの魅力、クリシュナの言葉、クリシュナのいたず
ら、クリシュナの遊戯、クリシュナの手柄、クリシュナが
達成したことだけを、喜んで聞きました。

あなたがクリシュナへの愛で自分を満たすとき、あ
なたは自分と神は一つであるという意識(サールー
ピヤ)と、神との融合(サーユツジャ)に達します。こ

れより低次の勝利ではなく、この極地に達しなさい。

一九六五年七月十三日

グル プールニマー祭

ブラシャーンテイ ニラヤムにて

Sathya Sai Speaks Vol.5 C34